

戦争を知らない平和と言われる時代に生まれた私にとって、本や残された映像などでしか見聞きしたことがない、まさしく触れたことのない戦争という世界。それは、かつてはどこか遠い国の物語のように感じていたものでした。けれども学校で戦争についてのことを学習するうちに、その物語は少しづつ身近な問題へと変わつていったのです。

戦時中の学校では、国のために尽くす国民を育てる教育が行われていました。男の子は剣術、女の子はなぎなたや看護の訓練が授業中に取り入れられていたそうです。今の私たちの学校は、友だちと笑い合い、学習や運動に励みながら明るい未来を夢見る場所です。それが、いつか戦地に出るために必要となる訓練を行う場だつたなんて、想像するだけで胸が苦しくなります。明日、となりの席に座る友だちが戦地に送られるかもしれない。そして私もまた…。そんな不安な日々が続くのだとしたら、どんな気持ちで学校生活を過ごすのだろうか、と考えてしまします。

また、当時は食べ物や生活するための道具がとても少なかつた時代でした。空腹を覚えながら、それでも勉学や訓練に臨まなければならなかつた子どもたちの姿を思うと、心が痛みます。私たちは、毎日温かい食事をおなかいっぱいに食べられます。けれども、当時の子どもたちにとつて、それは夢のようなことだったのかもしれません。十分な食事ができないことは、生きる喜びをうばう、悲しいことだと思います。

さらには「空襲」が頻繁にあり、授業中であつても「防空壕」に避難することが日常的な地域もあつたそうです。突然鳴りひびく警報に頭上を飛び交う爆音。日常が一瞬で恐怖へと突き落とされる。私たちがふだん窓から見ている空は青く澄んでいますが、彼らが見ていた空はいつ煙に覆われるかわからない、不安なものだつたのでしょうか。子どもたちは危険を避けるため家族と離れて暮らしたり、無償で働いたりすることもあつたといいます。愛する家族らと引き裂かれ、慣れない場所で過ごす日々は、幼い心にどれほどの傷を残したことでしょう。子どもは、家族の愛情に包まれて育つことが幸せだと考えます。その幸せが戦争という名のもとに失われてしまうのは、あまりにも悲しいことです。

戦争は人の命をうばうだけでなく、全てを壊します。温かい食事や家族との時間、そして美しい空をながめながら考える明日への希望。それらを無残に消し去る、悲惨な争いです。その戦争のことを知るのは、今を生きる私たちの責任です。二度と過ちをくり返さないために過去から学び、平和のありがたさを忘れてはいけないと思います。そして、今ある幸せに感謝すること。それが戦争というつらい時代をのりこえた人々からの、私たちへの大切なメッセージなのだと感じています。